

作物品種名雑考(1)

誌名	農業技術
ISSN	03888479
著者	後藤, 虎男
巻/号	33巻1号
掲載ページ	p. 40-42
発行年月	1978年1月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat



作物品種名雑考

—(1) 麦 類—

後藤虎男

(1)

御存知のように、わが国における作物の育種は、大正前にも農事試験場や県農試、また農家の手によって行われていたが、全国的に組織的育種が農林省によって行われるようになったのは昭和の初めからである。

組織的育種の発足と同時に、農林省関係の育種組織によって育成された新品種は、作物名の次に農林何号をつけて命名されることになった。しかし、やがて小麦や稲の農林番号品種数も増え、番号だけでは間違ひ危険性が生じたので、特性を示唆するような命名法を採用することになった。すなわち、昭和25年2月27日に作物品種命名方法が決められ、農林番号は従来に引き続きつけるが、単なる整理番号とし、別に農民に親しまれ易い名をつけて、これを品種名として一般に使用することになった。品種名のつけ方としては、できるだけカタカナとし、止むを得ない場合は当用漢字を用いてできるだけ漢字はさけること。栽培適地、特性などでできるだけ特徴をあらわすものをつけるが、府県名または育成地の所在地などは避けること。なるべくカタカナで6字以内とするということに決められた。

(2)

麦類のうち、わが国で組織的育種が戦前から行われたのは小麦だけであり、昭和24年までに登録されたのは小麦では農林75号までであり、稷麦では農林1号だけであった。昭和25年から昭和51年までに小麦では45、六条皮麦では27、稷麦では24、二条大麦では6、燕麦では4品種が命名されている。これらの品種名を調べてみると、小麦では、ほとんどの品種(45品種中例外は6品種)で品種名の後半にコムギが付き、六条皮麦ではほとんどの品種(27品種中例外は1品種)にムギが付けられている。稷麦の品種ではほとんどの品種(24品種中例外は1品種)にハダカが付けられ、二条大麦では醸造用の場合にはゴールデンまたはゴールドが付けられ、飼料用の場合には品種名の前半にカワが付けられている。ところが燕麦では全く自由に品種名が付けられている。

わが国では小麦、大麦、燕麦をひとまとめにして麦というので、品種名にも作物名を表わす部分がないと混乱が起る可能性があるので、このような法則性が必要と考

えられる。しかし、とくに小麦の場合、外人に説明する場合に問題が生ずる。それは、栽培植物品種命名の国際基準(International Code of Nomenclature of Cultivated Plants)に違反しているからである。同基準によると品種名の一部に作物名が入ることは禁止されている。Tam wheat 101 という品種が米国 Texas 州で育成され、私どもも交配母本として使用していた。ところが米国農務省に登録される時に異議が出て、wheat はけずられ TAM W-101 と品種名が変更されてしまった。したがって、日本の小麦品種名には、どれにも komugi という字が入っているが、どうも wheat ということらしいから、国際基準上削除してほしいなどと、そのうち外国から異議の申し入れがなければよいかと心配しなくてもよいだろうか。外国にも飼料用小麦品種や飼料用大麦品種もあるが、命名上では特に食用または醸造用の区別はしていないようである。

故池田首相の「貧乏人は麦を食え」という言葉はあまりにも有名であるが、この場合の麦とは大麦であり、パンやうどんを作る小麦ではなかったようである。最近では金持は米よりパンを余計食べるようで政府も頭を悩ませているようだが。古来から皮麦や稷麦は貧乏人が食べるようになっていたようで、宮城県には貧乏助という皮麦品種があり、千葉県にはつつましい話であるが米イラズという皮麦品種がある。また悲しい話として借金切という稷麦品種もある。

(3)

作物品種名雑考といっても、すでに100を超した農林省登録品種名を総なめにするほどの学は私にはない。したがって、思いつくままに筆を走らざるを得ない。俺が苦心して付けた品種名にけちをつけるのか、お前だって録な品種名も付けられないくせに、ということになりそうですが、あばたもえくぼということもあります。見方を変えれば欠点も長所に変るもの。お許し下さい。それはともかく、品種命名の由来を探ってみることはまことに楽しい。

昭和30年代の後半から麦育種に関係しだした私は、北陸の小麦品種ヒカリコムギの命名の由来が分らないままに、この品種をながめていた。ヒカリとは硝子率が高く粒が光って見えるからだと言ったのは、お恥しい話だが

今回農業技術に原稿を依頼されたおかげである。北海道のハルヒカリのヒカリも硬質を意味するとのことである。ヒツミコムギのヒツミはスイトンのことであるといわれても戦後生れの人たちにはびんと来ないだろう。早播ができるからといってアカツキコムギと命名したのは、関塚さんかもしれないが、よっぽど早起きの好きな方が命名されたものと考えられる。東北地方にフルツマサリという小麦品種がある。ある時、岩手県農試の古沢典夫さんに言われたのだが、農家は品種名の始めの方しか呼ばないので、うっかりすると混同しやすいから、〇〇マサリという命名は感心しませんねとのこと。そういえば、われわれは普通、農林61号はロクイチ、フジミコムギはフジミ、フルツマサリはフルツと呼んでいて、成績書に書くときとか公式の席でしか品種名を最後まで呼ばないようである。

品種名として私の好きなのは吉田美夫さんの命名によるのかも知れないが、ニチリンコムギである。由来には、普及地帯には南国の強烈な太陽がふりそそぐことに因みと書いてあり、何となくゴッホの絵を思わせる。ところが次に命名されたヒヨクコムギの命名の由来には異議がある。比翼連理に由来し、多くの人々の協力を意味しているとのこと。しかし、諸橋先生の大漢和辞典によると、比翼鳥とは雌雄ともに1日1翼で、常に一体となって飛ぶ鳥を意味し、夫婦が相親しんで離れ難いのをいうとある。さらに、連理枝とは、根幹の別な枝が相接して一つとなったもので、互に愛情深い夫婦、または男女の契とある。どうも、多くの人々の協力といったものではなく、人目をばかるといふような秘めごとを意味するようである。

ついでに小麦について言わせていただきます。ムカコムギはどれもヌカコムギに音が似ており気になるが、タクネコムギは、アイヌ語で短いという意味のタクネを使ったとのこと非常にユニークな品種名と考えられる。中川元興さんが付けられたのかとも考えられるが、早熟であることを意味するオマセコムギ、穂が拳(コブシ)に似ているコブシコムギなどとはなんとなくほほえましい品種名である。

皮麦ではフクムギが、寒さに負けずに咲く福寿草からとったフクジュムギを縮めたものとは、長いこと知らずにいました。皮麦品種名のなかで一番気になるのはアカンムギです。阿寒湖のほとりが適地であるとの意味は分るけれど、音があかんです。この頃はほていさまにお目にかかることがなくなったので、粒が豊満だからホテムギと名付けたとは、全くこれも気付かず失礼しました。ハクトムギのハクトが因幡の白兎とはほほえまし

い。ドリル播栽培の普及に貢献したドリルムギは、外国語と日本語との合成語で、意図は分かるがあまり感心したのではない。

音のことで気になるのはサナダムギ。名将真田幸村にあやかっただのはよいが、成績書にサナダムシと誤記されはしないか(というものはがねむぎをはがねむしと印刷屋に書かれたことがあったものだから)ということ、大将の風格を出すためにはサナダオオムギとした方がよかつたのではないか。皮麦にはたいがいムギが付けられているが、オオムギと付けたものにはキノメオオムギを始めとして、最近ではミユキオオムギ、ハヤミオオムギがある。

稈麦ではシロシンリキを除いてはハダカが付けられており、あでやかというかなまめかしい品種名が多く、記念切手を眺めているような楽しみがある。アヤマハダカも美しい。冬の女神白姫に由来するシラヒメハダカも美しい。万葉集のなかで柿本人麻呂の読んだ玉藻よしという歌に因んだというタマモハダカも美しい。最近の品種名ではベニハダカも美しい。しかし、女性的品種名ばかりかと思うと男性美の稈麦品種もある。クロシオハダカは舟乗りの肌を思わせ、カイモンハダカも、ナンエイハダカも男性的である。しかし、機械化適応性がすぐれているとの意味は分るがキカイハダカは、私には鬼界島を想像させ、どうもなじめない品種名である。

二条大麦のニューゴールドはドリルムギどころではなく、全く日本離れしてしまった品種名に国籍を疑われよう。燕麦のオホーツクも同様だが、いかにも雄大な感じがよい。モイワはオリンピックで有名になった。

(4)

この辺で外国の麦品種名に触れたい。明治の初めにわが国の試験場に多数の外国品種が導入されたが、横文字に不馴れだったため、畿内支場では米〇号、伊〇号、濠〇号、仏〇号という名前をつけて保存していた。外国語に不馴れだった人には大変便利だったのはよかつたが、なかには原品種名が分からなくなってしまったものもある。

わが国の品種番号の Norin は小麦農林10号によって世界中に有名になったが、同様に番号で品種を呼んでいる国もある。パキスタンでは古い品種はC一番号で呼ばれていた。同国を訪れた際にC一とはどういう意味かと尋ねたら、CrossのCであり交配によって育成されたことを意味するとのことであった。インドの Pusa 番号も有名だが、最近ではハンガリーが Martonvasar 番号を付けている。これらは育成地名である。また、外国の種

苗会社のなかには、会社名のあとに番号をつけて品種名としているものもある。

わが国では幸いなことに、本誌農業技術をみれば、農林省登録品種の品種名の由来がすべて書いてあり大変便利であるが、外国では命名の由来にまで触れている場合は極めてまれである。したがって、外国の品種名の由来となると、極めて不十分なものにならざるを得ないのが残念だが、貧しい知識の一端を披露しよう。

お隣の韓国の小麦品種には長光、永光といったように光が付いており、大麦の品種には麗妓、杭眉などとなまめかしいものがある。中国人は、外国の品種名を中国風に変えるのが天才的である。イタリアの品種 Mentana は中国で極めて作付面積が大きい、これは南大2419と呼ばれて普及している。また、同じくイタリアの品種 Ardito には矮立多という名が付けれられ、これまた広く作付けられている。希望 (Hope)、麦粒多 (Merit) なども上手に名前を付けたものと感心させられる。私は農事試験場で小麦の試験をやっていた頃、品種保存中の中国品種のなかに中農28という品種があり、特に強稈で多収なので喜んで試験に使っていたが、後で分かったことだが、イタリア品種 Villa Glori のだった。中国では白とか紅とかによって稈色の区別をしている。白和尚は白稈の無芒品種であり、紅麦は褐稈の有芒品種である。中国の小麦品種名のなかで忘れてはならないのは合作1号から7号である。これらは東北地方(満州)の春小麦品種である。合作という意味は、公式には中共政府の技術者が、それ以前の旧政権そだちの技術者との協力によって育成したとなっているが、実は、昭和21年から昭和28年まで中国によって強制留用された永野義治さんらの日本人技術者が中国の技術者との協力によって育成したものである。

(5)

どのようなヒントによって品種名が付けられたかを調べると、その国の国民性がうかがわれて興味深いものがある。わが国は山国であり、山岳信仰によって山々に神様がまつてあるため、山に由来する品種名がかなり多い。たとえばフジミコムギ、ホロシリコムギ、ハクサンムギ、ハルナムギ、ツクバハダカ、カイモンハダカなどがそうである。また、川に由来する品種名としてはキタカミコムギがある。ユーゴスラビアを訪れた際、同国の小麦育種家 Dr. Borojevic に同国の多収品種 Sava の命名の由来を聞いたところ、同国の母なる川であり、首都ベオグラードでドナウ川に注ぐ Sava 川に由来すると教えられた。先日オーストラリアの学者が私どもの試験

場を訪れたので同国の小麦品種名一覧表を手に入れることができたが、その表には Robin (コマドリ)、Condor (ハゲタカ)、Eagle (ワシ) から始まって10以上も鳥の名前が出ており、自然を愛する国民性がうかがわれてほほえましかった。アメリカの小麦育種の第一人者 Dr. V. A. Johnson が私どもの研究室を訪れた時にも品種名について教わった。アメリカには小麦品種にインディアンの名前が多いですねといったら苦笑していたが、西部劇でおなじみのアパッチ族 (Apache)、コマンチ族 (Comanche)、シエイアン族 (Cheyenne)、カイオワ族 (Kiowa) などインディアンの名前の品種は10以上もある。これにはアメリカ大平原に強くたくましく育つよりの小麦育種家の願いがこめられているように思われる。

わが国では農林省登録品種名のなかに、研究者の名前に由来する品種名は見当たらないようだ。もっとも、奥様の名前をもじって秘かに付けられたものもないとはいえないが。しかし、米国にはその地方の小麦生産に貢献のあった人の名前を記念して命名された品種名がかなりある。ワシントン州の有名な品種 Gaines はワシントン州立大学の故 Dr. E. F. Gaines の功績を記念して命名されたものであり、Burt は Dr. Burton B. Bayles にささげられ、Parker はカンサス州立大学の元小麦育種家 Dr. Parker にといった具合である。有名な大麦品種 Wong の品種名は、この品種育成のための交配を行った南京大学の Wang 教授 (Wang を米国では Wong と発音する) にささげられ、Taylor という品種名は同品種育成のための交配と初期世代選抜に貢献した Taylor 氏にささげられている。

わが国では品種名を考えると、漢字の持つ意味をなんとか取込もうとするが、日常の生活のなかで字の意味よりは音の感覚の方が優先している国々では、かなり自由に品種名が付けられている。Rego という品種は Yogo と Rescue の交配から生れたものであり、Marfed は Marquis と Federation といった具合である。

まだまだ、楽しいことがありそうだが、最後にフィンランドの品種名の話をして終りとしたい。フィンランドの品種にはバックとかエロなんて変な名前があるので、変な国民だなあと思っていた。この際だからこれも調べてみよう、フィンランド語・英語辞典で調べてみたら、なんのことはない、Vakka は bushel であり、Elo は grain と分り、なんだ意外に真面目な国民だなと考えを改めさせられた。(東北農業試験場栽培第2部)